

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

スタッフ教育による踵部の褥瘡予防ケアの質向上が褥瘡発生に及ぼす影響
～大腿骨近位部骨折患者に焦点を当てて～

2. 研究責任者(当院)

所属：聖隸佐倉市民病院 B3 病棟

氏名：阿部 遥香

共同研究の場合は代表機関 及び 代表者名

機関名：該当なし

代表名：該当なし

3. 分担研究者

所属：該当なし

氏名：該当なし

4. 研究対象者

B3 病棟に勤務する看護師、看護補助者

5. 研究の必要性

2016 年度の全国での一般病院の褥瘡発生率は 2.46%、2021 年度では 1.15% となっており以前より減少傾向にはあるが依然として重要な課題として考えられている。2016 年度の当院の発生率は 1.85%、2021 年度では 2.15% と全国とくらべても褥瘡発生率が高くなっている。実際 B3 病棟のここ数年の褥瘡発生率を見てみると 2022 年度は 1.2% だったが 2023 年度は 2.2%、2024 年度は 2.3% と発生率が高くなっている。

褥瘡発生部位で見ると、全国で出ている順位は①仙骨②踵部③尾骨④大転子部⑤脊柱部である。しかし 2024 年度の当院の褥瘡発生を部位別で見ると①踵部②尾骨・殿部③仙骨部④大腿・転子部と踵部の褥瘡発生が増えて 1 位となっている。実際 B3 病棟でも 2024 年度の踵部の褥瘡は 19 件中 4 件であった。その 4 件の褥瘡発生した患者を比較したところ、いずれも 80 歳以上の患者で大腿骨近位部骨折に対して手術をしており、その患肢側に褥瘡ができていることが分かった。4 件とも水疱の段階で発見されており褥瘡予防の対策がされていなかった。また DESIGN-R での評価も正しく評価されていないことが多い、褥瘡に関する知識不足によりケアが未充足となり、その結果褥瘡発生数の増加に繋がっているのではないかと考えた。

高齢化に伴い、ADL・QOL の低下を招きやすい大腿骨近位部骨折の患者は今後も増加していくと予測されている。病棟スタッフの褥瘡に関する知識の確認をアンケートにて実施し、それをもとに勉強会を開催することで知識・予防ケアの充足を図り、褥瘡発生率の低下、褥瘡の重症化の予防につなげる。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

侵襲を伴う研究ではなく、人体への影響はないと考える。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1151 B3 病棟

担当者氏名：阿部 遥香

対応時間：平日 9 時～17 時

共同研究において専用窓口がある場合

該当なし